

飼育員は見たべあ！

のぼりべつ
クマ牧場通信
21号

2019年
3月1日

発行

のぼりべつ
クマ牧場
動物課

産室に響く6頭のコーラス



母グマのシズク(右)とその胸元で元気に動く子グマ2頭(左)

=2月5日、産室、赤外線カメラによる撮影

産まれる時は一斉に！？
若グマたち育児に初挑戦

昨年(2018年)の12月23日から5頭が産室入りしました。初めて出産準備をする4頭も、巢材(ワラ)できちんと寝床を作り落ち着いた状態で過ごしていました。いつだれが出産してもおかしくない状態で、出産の時期を迎えました。

トップを切ったのは初産室のマリンでした。1月16日の午前、マリンの部屋から子グマ1頭の声が聞こえました。小さいながらもささささささ(※)も聞こえました。出産直後の母グマはとても神経質になっています。そのため母グマが落ちてくるまでの産後数日間は、目視での観察や給餌はせず、できるだけ母グマを刺激しないようにします。そして、音だけを頼りに産室内の様子を探ります。2日後には2頭目の子グマの音が聞こえたような気がしましたが、はっきりとは分かりません。ようやく3日目の観察で、ギヤーギヤーと元気に鳴く2頭の子グマの音が聞こえました。マリンに続き、ツムギも同じ日に出産しました。午後の観察のとき、ツムギがモゾモゾ動く様子がありました。鼻息が数回聞こえた後に子グマの音が聞こえてきました。しばらくギヤーギヤー鳴いていましたが、母が抱いたのか静かになりました。翌日には、さささささ

とギヤーギヤーと鳴く声と同時に聞こえて、ツムギも2頭出産していたことが分かりました。

マリンとツムギの出産から2日後の1月18日には、シズクが出産しました。午前に産室の観察をしていたところ、子グマの鳴き声が聞こえてきました。シズクの部屋には観察カメラを設置しています。モニターを見てもシズクは全く動きませんが、室内からはシズクが子グマの体を舐めるような音と、子グマのかすかな鳴き声が聞こえました。1月21日の観察では、2頭分の子グマの音が聞こえてきました。合計で3部屋から6頭の子グマの音が確認できました。

産室には子グマたちの元気な鳴き声が、毎日響き渡っています。母グマがちゃんと子育てしていることが分かり、飼育員たちも安心して見守っています。誰にも育児を教わっていないのに、初めての出産でしっかり子を育てられる母グマの逞しさを感じます。まだ産んでいないベテランのトルエや、マリンたちと同じく初産室のマロンも、形のいい巣を作り状態もおちついていきます。今後さらに産室がにぎわいそうに楽しみます。

(※さささささ：子グマが母グマに授乳を求める鳴き声のこと)

クッタラ湖の 今日この頃



湖面が凍り始めたクッタラ湖
=2月11日

のぼりべつクマ牧場の2月は冬真ただ中です。気温は毎日氷点下で、景色にも至る所に真冬を感じます。注目したいのはクッタラ湖です。全面凍結はしませんでした。その分1日を通して異なる表情を見せてくれます。夜間に冷え込んで凍った部分が広がる朝は、氷に雪が積もって白く化粧したところと、まだ凍っていない濃い青が入り混じった姿をしています。

のぼクマ劇場

なる作



冬は出産の季節



今日も元気にしてるかな



え、私？

誰か倒れてる！

しかし、朝日が昇って気温が上がると、まだ薄い氷が溶け出して、白い化粧が小さくなっていきます。場所によっては氷が風に流されて、白が移動したりもしています。冬のクッタラ湖は、1日の中でこのような姿の変化もみせてくれます。湖面で白や青が動いたり大きさを換えたりして、まるで湖が生きているようです。

エブリデイ！ エンリッチメント

大雪のある日の開園前の事でした。第一牧場には特に好奇心旺盛なカンタ(12)がいます。この日のカンタは、朝から特製のぶら下げタイヤに夢中でした。雪景色の中、頬をタイヤにスリスリして遊んでいました。するとそれにつられてか雪の影響か、ほかのクマも活発

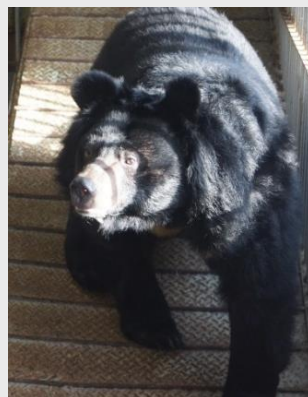
になっていました。

第一牧場の裏ボスとも呼ばれる大きな体のナッツ(12)は、鉄骨擬木のお立ち台に登って一人遊び。消防ホースのおもちやで綱引きをしていました。カンタもナッツも気まぐれな性格ですが、飼育員お手製のおもちやが大好きなようです。雪がたくさん降ると、クマたちはテンションが上がっています。若いクマは飛び跳ねながら嬉しそうに駆けっこしたり、顔を雪にうずめたり楽しんでいきます。朝から氷点下で元気に遊ぶクマを見られたら、何か良い1日になりそうですねがします。



お立ち台に登ったナッツ(左)とタイヤで遊ぶカンタ(右)
=2月6日

ノビタ白内障手術 その後は？



坂を駆け降りるノビタ
=2月20日

ノビタはリハビリも順調に進み、今では色々なものが見えるようになりました。飼育員がそばに来ると、目でしっかりと見て近寄ってくるようになっていきます。また、飼育員が左右に移動すると、それに合わせてノビタも追いかけてきます。最近ではオスの特徴的な行動の一つである「背こすり」をするようになってきました。また、木材に穴を開けてハチミツを塗ったおもちゃをノビタの部屋に入れていきます。初めのうちはハチミツの取り方が分からず木材を粉々にしてしましました。今ではハチミツだけを器用にとっています。食べ終わった木材も転がしたり、投げたりして遊んでいます。